

秋田魁新報 2022年02月07日付 社会1

金メダルを獲得した小林陵侑選手(25)に、本県関係者からは「よくやつた」「混合団体、ラージヒルでも頂点を狙つて」と歓声が上がった。

鹿角市花輪スキー場のジャンプ台にはナイター設備があり、夏も利用できるため、県内外の選手が練習に訪れる。小林選手も小学生時代に鹿角ジャンプスポーツ少年団の選手らと花輪スキー場で技術を磨いた。松尾中、盛岡中央高と進んでも足しげく通つた。

同スポーツ少年団の元団長で現在顧問の渋谷久夫さん(89)は、鹿角市の自宅でテレビ中継を見ながら応援した。追い風の中、トップに立つた1回目を見て「踏み切りのタイミングが良く、ほぼ完璧なジャンプだた。頂点を狙える」と思ったという。金メダルが確定すると「2回目は重圧に耐えてよく頑張った。1回目の貯金

が生きた」とたたえた。昨年10月ころ、小林選手が練習で花輪スキー場を訪れた際に言葉を交わした。「無邪気だった少年が立派に成長し頼もしく思った。スキーに取り組む真剣な姿勢は昔と同じ。世界のひのき舞台で活躍してくれる予感はありました」と語った。

花輪高スキー部監督の大森敬一さん(53)は、鹿角市の宿泊施設でテレビ中継を見て応援。「『すごい』の一言。1回目のパーカーフェクトなジャンプで金をたぐり寄せた。花輪のジャンプ台で育った選手が金メダルを獲得してくれてうれしい」と声を弾ませた。

さらに「今までは『花輪から五輪を目指す』ことが目標だった。小林選手の活躍は小中学生や高校生に『花輪から世界の頂点を目指す』という夢を与えてくれた」と語った。

(高橋秀明)

県内スキー関係者も祝福

©秋田魁新報社